

芦生からの便り 第10回



ある女の子の話

こんにちは！芦生研究林です。
今年も、暑～い夏ですね。みなさん、夏バテされていませんか？
そんな中、皆さんにちょっと涼んでいただく為に、今回は、ある女の子の話をしましょう。
2年前の12月のことです。

その秋、芦生は合併処理槽の工事に入りました。汚水で芦生を汚さない為にも、待った念願の工事でした。工事は、順調に進んでいたのですが、工事関係者の中から、“夜、女の子を見た”という声が聞こえてきました。その声は、近くに住む人からもありました。

工事中でもありますし、ほっておく訳にもいかないだろう、という心の声と、さて、どうしたものだろう、という心の声とが、私の胸から聞こえてきます…。

それで、芦生をよく知っている技術職員OBさんに電話をかけて聞いてみましたら、「戦前に芦生にいらした教員の小学生の娘さんが自動車事故に遭われて亡くなった、と聞いている。でもあの子は、賑やかな雰囲気が好きで、悪さはしない。皆が賑やかな事をしていて、出てくるだけ。」との答。

ということは、工事で、女の子のいる所を掘り返してしまったのが悪かったのか、工事で、構内が賑やかになったから、出てきたのか、それは、わからない事になります。

それでも、それも何かのご縁と思ひ直して、その年の御用納めが終わった時点で、お坊さんに来て貰う事にしました。地元のトンネル工事等の“そういう事”に、よくよばれるお坊さんがいる、というのを地元の職員が聞いてきたものだから、そのお坊さんに来てもらうことにしたのです。

そして奇跡的に雪が止んだ当日、霊的な体験にはトンと縁がない私（そして、私はクリスチャンです…）を筆頭に、「そういうものは、信じないけど?」という職員やら、「何でもいいから済ませましょう」という職員、「何ですか?」という職員等、御用納めの日に芦生に残っている職員で、女の子のお送りをしたのです。

（もっとも、お坊さんには、土を掘り起こしたりする工事の時は、工事の前にこういう儀式はしておくものだ、とお叱りを受けましたけど。やっぱり、私が叱られなくてはならなかったのでしょうか…。これって、大学のどこの管轄?!）

この数年前のその日の出来事がよかったのかどうかは、私にも判りません。ただ、“今の科学では解明出来なくて超自然現象に見えている事は、沢山あるかもしれない”とは、今でも思っています。

この女の子…も、100年後の科学だと解明出来てしまうのかもしれない。もっとも、芦生の山や森の中にいると、何でも科学で解明出来るのだと思う人間の方が不遜に思えます。人間の手の及ばぬもっと大きな力が在りそうだと考える方が、人間、謙虚に生きていけるような気がするのです。

（お坊さんの儀式は、御用納めが終わってから行いました。職員は、無論、自由参加。また、お坊さんへのお礼は、私のポケットマネーから出しました。…念のため）

先日、芦生に住むある人に、女の子の事を聞いてみました。すると、女の子がいた場所に行っても、今は“気”を感じないそうです。彼女は、お母さん・お父さんの元へ行ったのだと想いたい私です。

2年前には、こんな想定外の仕事もありましたー。
（但し、怖がる方もいるので、場所はお教え出来ません）

（文：芝 正己）



アシウスギ



アシウアザミ



アシウテンナンシヨウ



著者プロフィール

芝 正己（しば まさみ）

京都大学フィールド科学教育研究センター（森林環境情報学研究分野 准教授）所属。

京都大学および宮崎大学・三重大学を経て1997年10月より現在に至る。

専門は、森林利用学、森林管理・情報学。

これまでの主な研究テーマは、

- ① 森林の経営基盤整備計画・評価法に関する研究、
- ② 持続可能な森林管理と森林認証制度に関する研究、
- ③ 森林の資源利用と保全計画に関する研究。